

## 令和3年度「市長と語り合う会」について（中西地区）

### 1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和3年 10月1日（金）	中西公民館	19:00～20:00	14	4	18

- 市側出席者  
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

### 2 会の概要

- 開会（秘書課長）
  - ・ 会の趣旨説明
  - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

#### 1. 令和3年度施政方針「コロナ対応と次の跳躍への備え」

##### ・ ワクチン接種

コロナ対応は令和2年から始まっており、昨年度は国の特別定額給付金をいち早くお届けすること、市独自の緊急経済応援給付金などの経済的支援が主であった。今年度はそれに加えてワクチン接種の円滑な推進が重要と認識し取り組んだ。まずは医療従事者等、次いで65歳以上の方への優先接種と進めている。9月からは12歳以上50歳以下のすべての市民が対象となり、1回目で85%、2回目で68%の方が接種を終えている。10月下旬には希望する方の予約分は接種を終える見通しであり、今後は予約がまだの方や、順次12歳を迎える子どもの接種を継続して行う。なお、国からまだ詳細が示されていないが、3回目もあり得る。2回目接種から8カ月後の方が対象になると言われている。未だ特効薬がなく、重症化すると命にもかかわる中で、ワクチンが現状唯一の対応策である。一人でも多くの方に接種していただくよう呼びかけていきたい。

##### ・ 空港・高速道路関連

どちらも中西地区に密接にかかわる問題である。特に高速道は今年度、益田～田万川道路の事業が進んでおり、中西インターチェンジが臨空ファクトリーパーク付近にできる予定である。交通アクセスが格段に良くなり、立地企業の活動が円滑になり、新たな企業誘致にも繋がることを期待される。地元のご理解ご協力をお願いしたい。

空港についても昨年秋に2往復運航継続が決まり、本来なら今頃これを十分に活用して5年3月以降の更なる継続に向けて取り組んでいるところだが、コロナで旅客事業は落ち込んでおり、1便も飛ばない日もある。コロナ終息後に利用拡大の手を打っていけるように、下準備を進めている状況である。

##### ・ 日本遺産認定を活かす施策

益田市の中世に関する様々な史跡とそのストーリーが、令和2年度に認定を受けた。休館中の歴史資料館をビジターセンターとして改修し、地元と連携して有効に活用していきたい。国においては認定の見直し・入れ替えも考えにあるとのことで、取り組みが十分でないところは認定を取り消される可能性がある。近隣の事例も参考に、活発な活用施策を図っていきたい。

##### ・ 益田市型中高一貫教育の実現に向けた取組

中学高校の6年間を、一貫した形で行い、高卒後、あるいは大学卒業後のUターンにつなげる狙いや、市の教育水準の引き上げなどを目指す。前段階の小学校や未就学児、また大学・就職と一貫した流れでつないで、子どもたちが益田に愛着を持ち、できれば益田に定着し活躍してくれ

ることを願って、魅力ある教育環境を実現していく。市内に多くあるものづくり企業の人材充実や、医療従事者の確保などの課題がある。まずは理系人材育成を重点分野として取り組みたい。これについては島根大学との連携を強化していく予定である。

## 2. 美都・匹見総合支所の名称変更

合併以来、旧町役場に支所を設置し部長級の支所長を配置し、4課或いは3課編制を経て現在は地域振興課1課で運用してきたが、令和4年度からは支所長を置かず、課としての体制で運営し、基本的な業務は本庁で統一化していく。住民票の発行などは従来通りの対応を維持する。「総合支所」という名称も実態に合わせたものに変更する。

### ○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 臨空ファクトリーパーク（FP）について
- ② 障がい者の終末期医療について
- ③ 企業誘致について
- ④ 島根大学との連携について
- ⑤ 美都・匹見の体制について
- ⑥ 内田地区の圃場整備について
- ⑦ 美都・匹見の危機管理・災害対応について
- ⑧ 美都・匹見の合理化について
- ⑨ 避難所について
- ⑩ 増水対応について
- ⑪ 臨空ファクトリーパークについて（再）
- ⑫ 漏水について

### ○ 閉会（秘書課長）

## 令和3年度「市長と語り合う会」

〔会場 中西公民館 開催日時：令和3年10月1日（金）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 臨空ファクトリーパークについて 羽原スポーツ広場の環境整備をしているが、問題を抱えている。市も当初あった企業誘致課が廃止された。県営だが市にとっても重要であり、工業用水の問題、テナント化、コンビニなどの整備、若者の定着、未分譲地等課題がある。どう対処していくのか。</p>	<p>① 日頃から広場の管理をしていただき感謝申し上げます。企業誘致については産業支援センター内に誘致推進室を設けて活発に行っている。山陰道のインターチェンジもファクトリーパークの最寄りに設定されるので、利便が高まることは確実である。今後も県と一体となって誘致活動を進めたい。新規の他、既存企業の増設もあり、厳しい国際的な競争の中で活発に事業展開している元気な企業もある。しっかりと支援を行っていききたい。工業用水については上水道の供給で十分賄えている。今後事業の拡大によっては新たな水源確保の必要も出ると思われるので、計画的に対応していく。</p>
<p>② 障がい者の終末期医療について 看取りの場が市内にないと感じている。認知症などで最期は市外の施設で迎える方が多い。何とか市内でできるような体制を検討してほしい。</p>	<p>② 市内の3つの大きな病院がそれぞれの機能を持ち、かつ病院間連携ができており、コロナ対応でも病床の確保にその連携が生きたと聞いている。いずれも民間病院なので、市の権限で診療科を調整するのは困難である。ただ県の地域医療構想策定に対し市としても意見が言えるので、必要な医療とその優先順位等について、県としっかり議論していきたい。</p>
<p>③ 企業誘致について 誘致のためには、従業員の生活に関わるインフラ整備が大事だと思う。ファクトリーパークについても近隣に商店などが無い。行政指導でコンビニを設置するなどできないものか。</p>	<p>③ 確かに商店や飲食店はない。市でも調査したが、例えばコンビニ出店には利用人口などの条件があり話が進まない。これは鶏が先か卵が先かの論理であり、山陰道のインターチェンジ設置などを有効に活用して誘致を増やし、将来は商店などが出展してもらえ環境を整えていきたい。</p>
<p>④ 島根大学との連携について 近隣には山口大学もあり、市出身の学生もいると思うので、そちらにもPRすべきではないか。</p>	<p>④ 確かに地理的には山口大学の方が近く馴染みもあると思われるが、島大では県内高校生の入学を増やす計画や、卒業生が県外に就職し流出してしまうことを押さえる計画を具体的に持っている。これが市のひとつの構想と合致していることが大きい。ただ島根県立大学や山口理科大、松江工業高専とも連携や協定を行っており、こうした高等教育機関との連携に力を入れていきたい。</p>
<p>⑤ 美都・匹見の体制について 美都・匹見は本庁からも遠く、本庁とのパイプがしっかり作れるような支所の体制を作してほしい。</p>	<p>⑤ 特に匹見は遠く、密接な相談事や災害時の応急対応などにおいて、今ある支所の機能をしっかりと活用し、日常の利便や緊急時の安全性を損ねることのないよう工夫していく。</p>
<p>⑥ 内田地区の圃場整備について 冷夏の影響などで今後不安を抱えている農業従事者は多い。自立できる農業を国にも要</p>	<p>⑥ 整備する農地がある一方で耕作放棄地などもあり、悩ましい問題である。一時国の予算が政策的に減少した時期もあった。市として</p>

<p>望してほしい。</p> <p>⑦ 美都・匹見の危機管理・災害対応について      当地区でも雨のたびポンプを稼働するが、美都・匹見は遠隔地であり、より大変だと思う。地域の方と議論しながら進めてほしい。</p> <p>⑧ 美都・匹見の合理化について      機能を中央に集めるということのようだが、市役所としてはいいだろうが、リモートで様々な実現できる時代ではないのか。むしろ機能を分散し、機能ごとに地域に拠点配置するのが平等ではないか。</p> <p>⑨ 避難所について      開発農地内の避難所では飲み水が出ない。ヒ素が出るとのことだが、これでは用をなさないのではないか。</p> <p>⑩ 増水対応について      市原の南田川で今年何度か増水したが、今年はすぐにポンプ車の対応をしてもらいありがたかった。</p> <p>⑪ 臨空ファクトリーパークについて（再）      上水道について、当初は白上・羽原のタンクに余裕があるとのことと向横田の百軒ほどにも供給していたが、工業用水が不足するのではないか。      構内道路に多くの桜を植え、田渕久美子さんのドラマに絡めて桜通りと名付けているが、その後の管理がされず、植樹した方の名を入れた看板も傷んでいる。未分譲地も松や雑草が生い茂っている。</p> <p>⑫ 漏水について      公民館の前で漏水している。早く手当てをしてほしい。</p>	<p>は農村や中山間地に係る予算充実を、国に訴えていかなければならない。その上で農業振興を進めていきたい。</p> <p>⑦ いざというときの体制づくりについて十分考慮しながら進めていきたい。内田地区の件については危機管理の面からも、国県と連携しながら機動的に対応していきたい。</p> <p>⑧ 全体的にスリム化していかなければならない中で、実際に分散化は厳しいと言わねばならない。建物は残るので、人員配置は継続していき、相談事などにきちんと対応できるようにしていく。</p> <p>⑨ 他の避難所の活用を促すほか、ファクトリーパーク立地企業の敷地を避難所として活用できるように企業の連絡会と協議しているので、そうした形で解決したい。</p> <p>⑩ （いただいた言葉にお礼を述べる）</p> <p>⑪ 今のところ用水の不足はないが、今後進出企業が増えると不足することがあり得るので、その際は県と協議して対応する。      植栽者の看板については、事業の実行委員会の方と先日意見交換を行い、今後の活用や連携について共有した。未分譲地については、県も年間予算の中で対応しており、市としても県と協力して管理していく。</p> <p>⑫ 水道部に確認する。      （近く漏水検査を予定している。）</p>
--	--